



5th

ええはがき コンテスト

The 5th HANKYU EEHAGAKI CONTEST

阪急京都線 part 3 & 千里線

入選作品集

目次

阪急ええはがきコンテスト 京都線part3&千里線について	1
最優秀賞 写真部門	2
最優秀賞 絵画部門	3
歴史・思い出賞	4
学生優秀賞	5
審査員賞 有野永霧先生	6
審査員賞 井上正三先生	7
大阪ええはがき研究会賞	8
茨木市長賞	9
摂津市長賞	10
吹田市長賞	11
大阪市長賞	12
特別賞	13
佳作 茨木市	16
佳作 摂津市	20
佳作 吹田市	24
佳作 大阪市	30
阪急ええはがきコンテストの軌跡	35
審査員の先生方からのメッセージ	39

本作品集では、作者の敬称は略させていただいております。
作者名にPNと付記した方はペンネームです。

ごあいさつ

地域（まち）の魅力を再発見し、発信するイベント「阪急ええはがきコンテスト」。5回目の開催となる今回の対象エリアは、京都線沿線（総持寺～南方）と千里線沿線です。

今回もメジャーな観光スポットや、日常風景の中の魅力を切り取った写真・絵画など、500点を超えるご応募があり、対象エリアの特性からか、生活環境に根付いた魅力を題材とした作品が数多く揃いました。

様々な視点で地域の魅力を捉えた作品を前に、審査員の先生方が熱い議論を重ねた結果、見事選出されたのが、この作品集でご紹介する珠玉の55作品です。

この作品集を通じて、みなさま方も今回の対象エリアの魅力を発見・再認識してください。そして、ご自宅の周辺や日々の外出先の風景の中でも、「ええはがき」の視点で地域の魅力を発見してみてください。

2014年11月

ええはがきコンテストのホームページ（<http://www.hankyu.co.jp/eehagaki/>）では、今回のコンテストの全入選作品の「ええはがき」がダウンロードできます。また、過去4回（2010年 宝塚線・箕面線沿線、2011年 今津線沿線、2012年 京都、2013年 京都線part2）の「ええはがき」もダウンロードすることができます。



阪急ええはがきコンテスト 京都線 part3 & 千里線について

募集作品

豊かな自然や歴史的資産、様々な活動など、いろいろな視点から見た地域（まち）の魅力を写真やイラストなどで切り取り、それらに対する思いやメッセージを添えた絵はがき、「ええはがき」を応募していただく。思い出の中の風景等を対象にした作品や、組作品の応募も可。

作品募集期間

2014年3月27日～5月31日

対象エリア

京都線沿線（総持寺～南方）
千里線沿線（北千里～天神橋筋六丁目）
※茨木市、摂津市、吹田市、大阪市（東淀川区・淀川区・北区）

賞

最優秀賞 写真部門	1作品	最優秀賞 絵画部門	1作品
歴史・思い出賞	1作品	学生優秀賞	1作品
審査員賞	2作品	大阪ええはがき研究会賞	1作品
茨木市長賞	1作品	摂津市長賞	1作品
吹田市長賞	1作品	大阪市長賞	1作品
特別賞	3作品	佳作	41作品

審査員（敬称略）

有野永霧（写真家）、井上正三（画家）、杉本容子（大阪ええはがき研究会）

主催：阪急電鉄株式会社

共催：阪急阪神ホールディングス株式会社

後援：大阪府、茨木市、摂津市、吹田市、大阪市

協力：大阪ええはがき研究会、株式会社阪急アドエージェンシー

▶ ええはがきとは…

ええはがきは、「大阪ええはがき研究会」が提唱するまちの魅力を発信する絵はがきのこと。

写真やスケッチに加え、作者の思いを伝えるコメント、撮影・スケッチした場所の地図が載っているのが特徴です。

ええはがきの3つの楽しみ方

見て楽しむ

この作品集を見て、沿線のええスポットを再チェック！
お気に入りの作品はWebからダウンロードしよう！

行って楽しむ

ええはがきを片手にまちの魅力を探しに行ってみよう！

送って楽しむ

ええはがきはもちろん、はがきとして活用OK。あなたの周りの人に送って、まちの魅力を発信してみよう！

「写真・スケッチ」



「作者のコメント」

「地図」

見守る太陽の塔 常盤光一
方碑公園正門にある太陽の塔が、すぐ前を通る若駒のモノレールをいつも見守っている様子をキャッチしました。

最優秀賞 写真部門

5th

大阪（まち）の魅力を写真や絵画などで発信し、街への思いやメッセージを伝えるのが「ええはがき」の目的です。応募作品はすべて公開されます。応募作品の著作権は、応募者（個人）に帰属します。応募作品の複製・転載は、許可なくして行うことはできません。応募作品の著作権は、応募者（個人）に帰属します。応募作品の複製・転載は、許可なくして行うことはできません。応募作品の著作権は、応募者（個人）に帰属します。応募作品の複製・転載は、許可なくして行うことはできません。

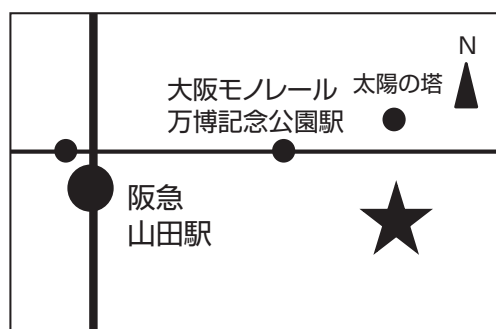
http://www.hankyu.co.jp/eegakari



見守る太陽の塔

常藤 光一

万博公園正門にある太陽の塔が、すぐ前を通る着飾ったモノレールをいつも見守っている様子をキャッチしました。



審査員 講評

このような独特のユニークな視角を見つけられた作者の感性に驚きを感じます。大阪モノレールの塔と桜で着飾った魅力的な車両と太陽の塔をギリギリの切り取り方で構成しています。太陽の塔が列車を見守るという未来性を感じる物語を作り上げた手腕も、絶賛に値する。優れたデザイン性をもった作品です。(有野永霧)



懐古風景

居村 倫也

懐かしい風景に出会った気がして、その場で描いて来ました。どこにでも存在する景色ですが、嬉しかったですね。デジャビュ（既視感）を感じました。



審査員 講評

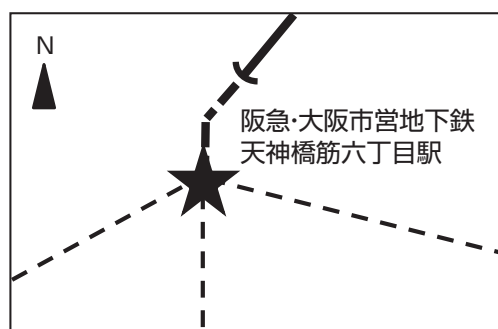
電車の架線と空を覆う電線、そして道端の自転車、日傘をさしゆっくりと歩くお年寄りの姿にこの道の飾り気のない素朴さがうまく表現され、画面の中にゆるやかな時間の流れを感じさせます。少ない色数、端的な筆タッチで何気ない日常をうまく捉えています。懐古と題されていますが、確かに日本の原風景ですね。柔らかな気持ちにさせる嬉しい絵です。（井上正三）



大阪市電全廃の日

山下 勝久

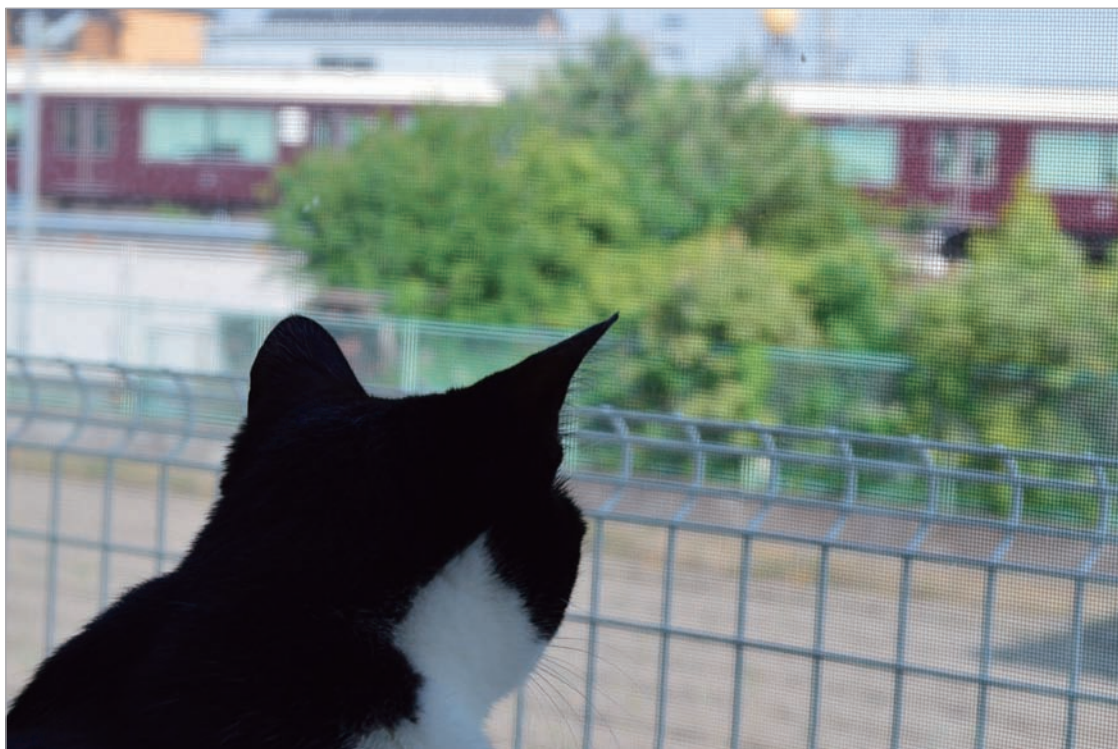
この日で阪急東口ー守口間の路線が消滅した。阪急電鉄は天神橋駅、大阪市電は天神橋筋六丁目であった。



審査員 講評

昭和44年3月31日が梅田の阪急東口ー守口間の路線が廃された日。祝花で飾られた市電が廃線の記念日を示しています。阪急電鉄の天神橋駅の在りし日の姿が記録されており、駅周辺の風景や駅前商店街などいろいろなことが思い出されます。この記録力こそが写真の力のひとつといえます。

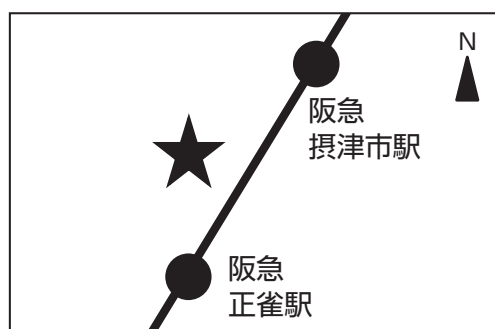
(有野永霧)



猫も夢中

吉田 朱里

3年前から飼っている猫が、家に来た時からずっと小さい子どものように阪急電車を見ていて、人間だけじゃなく動物も夢中になる阪急電車さんのすごさ。



審査員
講評

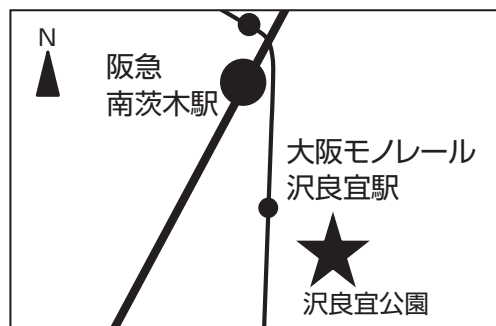
まちの魅力は、とらえる人によって様々です。魅力のとらえ方のコツをつかむと、グンとたくさんの魅力をキャッチできるようになって、まちが違って見える時があります。自分以外の人の視線をおってまちを追体験することは、そのコツの一つと言えます。この作品は、追体験の対象を人から動物にまで広げた作品です。学生さんならではのみずみずしい感性にあふれています。（杉本容子）



美味しそうな八重桜

がんこ (PN)

ポンポンに膨らんだ八重桜を見て嬉しそうなワンちゃんを撮影しました。この地域は、桜はもちろん梅も新緑もとってもきれいです。



審査員
講評

犬の舌と八重桜の赤味がマッチしているので、犬も桜を賞味しているかのように感じられます。場所性には欠けるが、この地域の各所に点在する多くの大小の公園の象徴としてすぐれた作品です。カメラとレンズワークが特に優れ、撮影のアンクル、距離と遠近感表現が見事なため、非常に躍動的な作品となっています。(有野永霧)



淡路の路地裏 円満字 洋介(3枚組)

このガード下は不思議の国へのトンネルだ。低い天井と電車の轟音をくぐれば日常であるはずの風景も少し不思議に見えてくる。ガードを出たところの精肉店のコロッケも魔法のようにおいしい。



淡路は路地が迷路のように入り組んだ魅力的な町だ。江戸時代の水路と街路の上に戦前の住宅地開発が行われてこうなったのだろう。各々の路地にある自家製キムチ屋やノコギリの目立て屋なども興味深い。

地藏市場前のお地藏さまはいつもきれいに掃除されていて真新しい花が供えられている。この風景はここが絶えず誰かによって守られていることを教えてくれる。この町の魅力の源泉だ。



審査員
講評

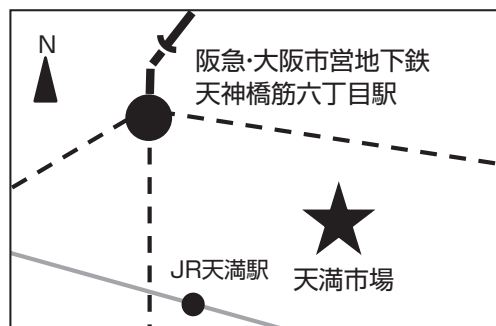
組作品の3点とも簡潔なデッサンと省略の利いた彩色で素朴な街角を表現されています。遠近も効果的です。省略を重ねながらも、どこまで写実性を見る人に与えるかは絵の基本の一つ。この絵の簡潔さは爽快です。日頃見慣れた風景であっても、視点と構図を考え、表現をきっちり整えれば、新たな感動を呼び起こす絵になります。絵になる風景は身近に存在するという嬉しい教示です。(井上正三)



昭和レトロ

飛山 光弘

大阪の台所、天満市場。大阪大空襲で全焼したが、現在の地・北区池田町に再建。その後近代ビルに代替りしたが、敷地北側には戦後の面影の残る木造店舗群が、昭和レトロの色と香を漂わせている。



審査員 講評

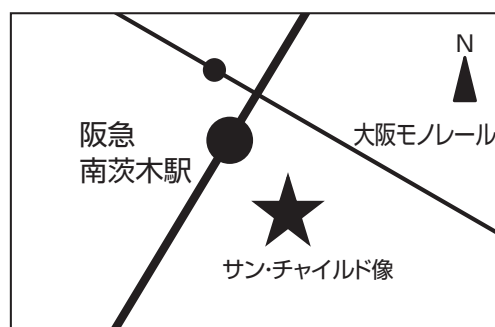
立ち上がる高層ビルとレトロな市場のギャップにハッとしてから、あらためてじっくり見なおしてしまう作品です。ビル壁面の明るいデザイン、張り巡らされた電線、味のある手描き看板など、大阪らしいまちの魅力が詰まっています。まちの探索者の好奇心、発見の喜び、瞬間的な感嘆に触発されて、思わずカメラ片手に出かけたくなってしまいますね。（杉本容子）



©Kenji Yanobe

サン・チャイルドが見つめる駅前 前川 敏夫

ここで、この子に出逢うとは！H23年に設置されてたんですね！知りませんでした。





桜旅

原田 正士

新幹線に歓声をあげる子供達を、満開の桜がうれしそうに見ていました。子供と桜の旅のはじまりです。

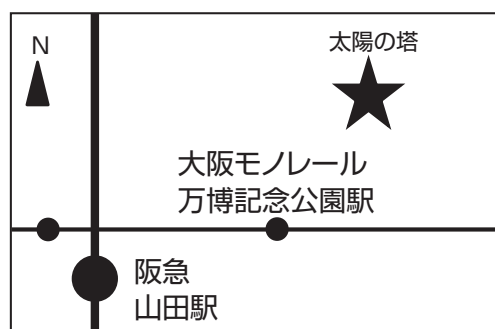




太陽の塔

長坂 富雄

満開の桜越しに見る圧倒的な太陽の塔。今年も千里の春を楽しむことができた。

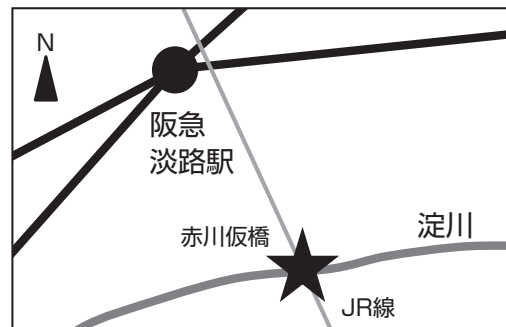




静けさ

本城 利彦

冬は渡り鳥、早朝はボート部の練習、生駒山からの日の出と好きなポイントだった赤川仮橋。残念ながら通行出来なくなっていました。もうこんな川の中央部から写真も撮れません。

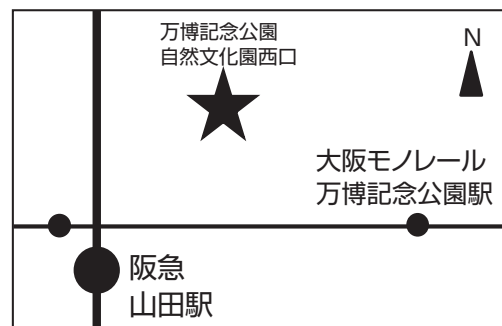




イエローステージ

瀬川 全澄

万博公園は吹田市の紅葉の名所ですが、それを取り囲む府道1号線沿いの銀杏も色あざやかです。その落ち葉がひろがったステージで楽しそうに遊ぶ子供が印象的で、思わずシャッターをきりました。



審査員
講評

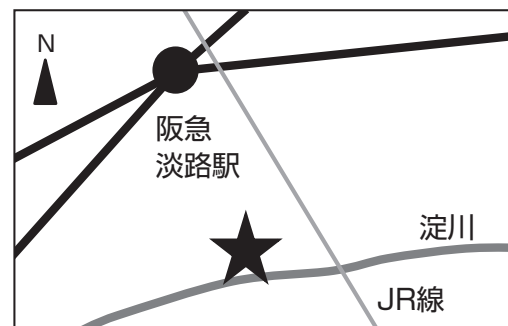
通いなれた公園。それまでそこに銀杏の木があることすら気が付かなかったのに、一面がイエローに変わり、初めてその存在を認識する人も多いでしょう。さらに、この女の子のダンスで、そこは突然「イエローステージ」にまでなってしまう。子どもはまちを独自の目線で楽しむ「まち遊び」の達人です。まちの魅力を一瞬で、楽しくみんなに伝えてくれますね。（杉本容子）



力を合わせ

本城 利彦

早朝ボート部の練習を時々撮りに来ます。ボートを上げる時の部員の姿がおもしろく撮ってみました。



審査員 講評

この地域の風物詩でもある、淀川で練習するボート部の人たちでありましょう。朝の練習のようにも見えます。練習の前か後か、力を合わせてボートを担っている。その彼らの姿が白い川面にシルエットで美しく浮き出ており、リズムカルに歩調を合わせているので、音符の様であり音楽が聞こえてくるようです。（有野永霧）



郡山宿本陣の道

平岡 正己

茨木市に関する知識は殆どゼロ。市のHPからプリントした「ぶらり歩こう散策コース」の地図を頼りに出かけました。歴史の道「西国街道」を歩きに歩いて、万歩計は1万6千余歩。出発点で描いた一枚だけに終わりました。



審査員 講評

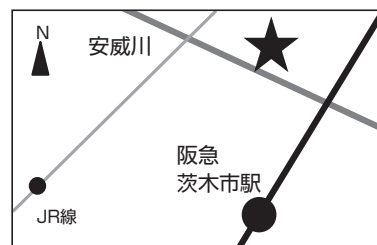
作者コメントで言われているように、ブラリ散策の旅の始発点でいきなりこの歴史的な景色に出会い、少しの驚きの中で立ち止まられたのでしょうか。そこで、まるで一句を読むようにサラリと爽快に仕上げています。柔らかで素早い鉛筆と筆タッチが小気味よく、この橋の本陣の街並みを支えてこられた地域の方々の郷土愛を表現されたような、そんな思いもします。（井上正三）



春をよろこぶ

瀬川 全澄

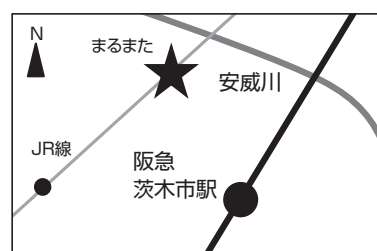
寒く長い冬が終わると、桜の季節がやってくる。当たり前のことだけど、やはりうれしいものです。



雨はもうすぐ止むでしょう

前田 穰

明治9年、東海道線が開通して以来ずっと使われているレンガ造りのトンネル。明るくなってきたので、雨はもうすぐ止むでしょう。



新春の空

水上 毅

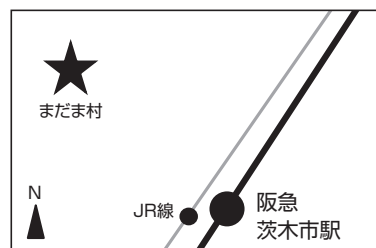
毎年行われる茨木市の消防出初め式の風景です。彩やかなカラー放水とともにお決まりの虹も出て、新春の空を彩ります。





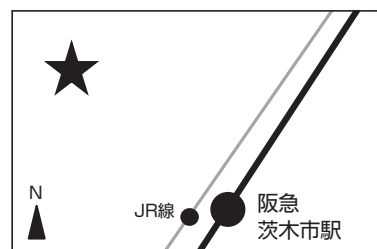
まだま村 松山 俊弘 (2枚組)

茨木市街地から程近い山間部に自然が残る千堤寺。千堤寺の竹林の中にひっそりと佇んでいる円錐型の形をした茅葺竪穴住居の「茶房まだま村」。自然食の縄文ランチ、スイーツが頂けゆっくりと寛げる憩いの場所です。



茨木市見山地区 井貫 百合恵

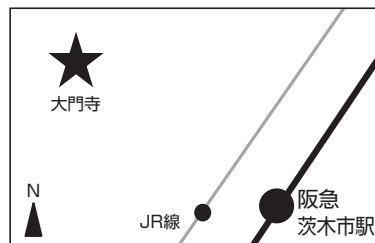
水を張った美しい棚田は私がよく足を運ぶ大好きな風景。日本の原風景がここ茨木市にもあります。のどかな里山に座り、おにぎりを食べながら描いたこの絵。さわやかな緑色の中にカエルの鳴き声が聞こえるでしょうか？





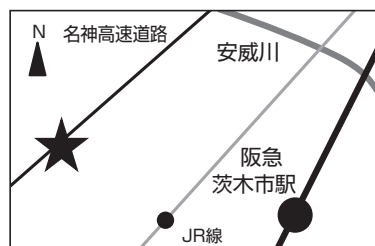
情熱燃ゆる大門寺 坂本 富美子

大門寺は開成皇子が開基の聖如意輪観音を秘仏とする1200年ほどの古刹。季節の移ろう様は美しく、11月12月は1年のフィナーレ。悠久の時を燃え続けて来た情熱がここにあります。私の大好きなパワースポット。



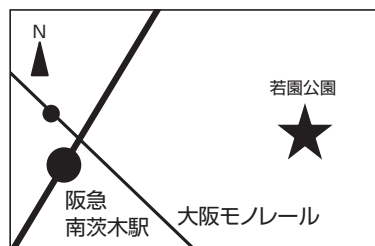
明鏡止水 落合 鋼

夕暮れ時、水面がまるで鏡のように周りの景色を美しく映しこんでとてもきれいでした。見ている自分まで穏やかな気持ちになりました。



ほっと一息ついて 松山 俊弘

バラの匂いに誘われ、近くでバラの花を見終え、休憩所のベンチに座り、ほっと一息つきながら眺めるバラ園の風景が素晴らしかった。



総持寺かいわい 升田 雅夫(2枚組)

総持寺駅は、昔住んでいた所で、よくこのあたりを歩いた。古い屋敷なども、お寺を中心に今も残っており、今もこのあたりを歩くとホッとします。お寺は、西国二十二番札所として有名。お寺の伝説も面白い。



総持寺と、そのかいわいは、古い屋敷なども残っていて駅周辺のにぎやかさとは正反対の静かでおちついた雰囲気がある。このあたりを歩いていると、昔の街道を歩いている様だ!!





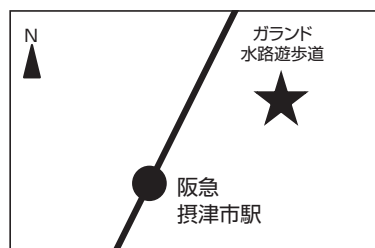
弥栄の樟 (やさかのくす) 眞殿 英一

大阪みどりの100選のひとつ「弥栄の樟」(やさかのくす)です。樹齢が1200年以上と立派な巨木で太い幹と見事な枝ぶりに圧倒されます。木の下から見上げてパチリ!長く生き抜いてきたことを思うと感慨深いです。



ガランド水路遊歩道 田中 昭雄

古い農業用水路が地域の人々に親しまれる水辺空間に…。2000年に「甞る水・百選」として建設大臣表彰を受けた。



名店

青葉 (PN)

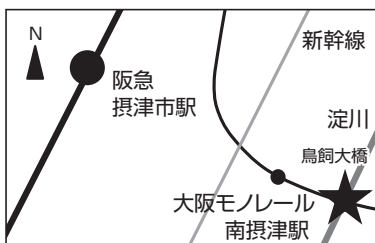
一見、ふつうの庶民的な佇まい。食してびっくりの味わい深さ。



鳥飼大橋

T.K. (PN)

京阪沿線で育った自分は、40年前小学校の社会の授業で淀川を渡る橋は「鳥飼大橋と枚方大橋」と習いました。その後、橋は増えましたが、主要道路やモノレールの走る鳥飼大橋は今でも淀川をまたぐ交通の主役です。



青空に舞

木村 房栄

新しくできた摂津市駅そばのマンションをバックに、色どりよく元気に泳ぐこいのぼり。都会的ファンイキを感じました。





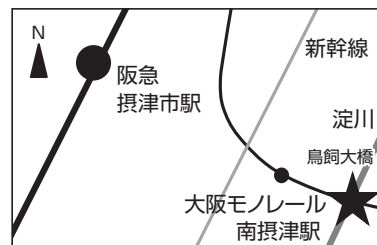
サイクリング 大内 康弘

「カーボン・ニュートラル・ステーション」である阪急摂津市駅の周辺は、環境にやさしい自転車で出掛けるにもいい場所です。



水の町 鳥飼の夕日 岡島 信博

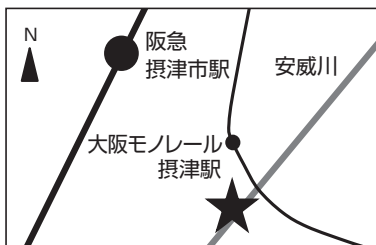
安威川と淀川、神崎川、大正川と水陸交通の要所として、古くから農耕の町として発展。水の町、でもありますが江戸時代から鳥飼ですが名産で、「なにわの伝統野菜」に認証されている。夕日が美しい鳥飼大橋。



息吹

原田 正士

ベンチを突き抜けて、タンポポの花が一輪咲いています。春の息吹がすばらしいです。



鉄路

前川 敏夫

正雀駅のホームに立って、工場を覗くと、新1300系列車がヘッドマークを輝かせて出番を待っていました。線路の重なり具合が好きで、よく眺めています。



緑の屋根

藤井 理恵

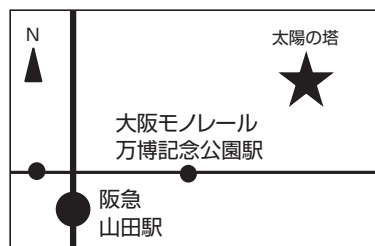
住宅街の一角、こんもりと茂る緑の屋根が目を引きます。ずっと昔からこの街の歴史を見てきた「弥栄の樟」の緑はいつも変わることなく、今日も静かに人々の暮らしを見守っています。





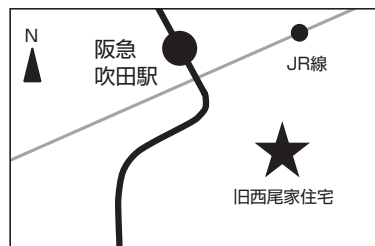
色褪せない思い出 田中 雅之

1970年の大阪万博をリアルタイムで体験した世代にとっては、それはまるでヒーローの様な存在。半世紀近く経った今でも、何度もこの場所を訪れた思い出と共に、色褪せずに生き続けています。



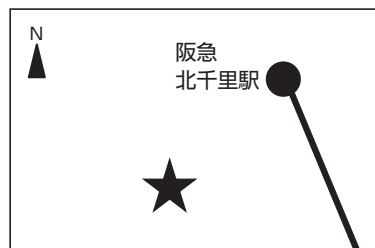
旧西尾家住宅の主屋 古賀 功

和風住宅の重要文化財を見学し、茶室座敷等の数奇屋建築やステンドグラス焼物の図案を数多く味わい、設計された建築家武田五一先生の意図がよく判り、此度主屋を描きました。又庭園の灯ろうも素晴らしいものでした。



秋映の池 (あきばえのいけ) 羽嶋 和子

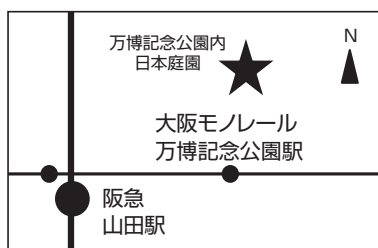
池のほとりのメタセコイヤが赤く色づいたので撮りに行きました。池に映った並木と泳いで来たカモの群れを、配置を考えて写した。



夏の輝き

前川 敏夫 (3枚組)

早朝の斜光は、池に美しい風景を映してくれます。夏の空と風を。



雨あがりの蓮の表情。見る者・撮る者をひきつけてくれます。



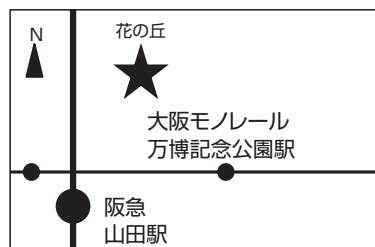
咲く花があれば、散り行く花も。大きな蓮の葉の中に、小さいドラマが見える。





「万博公園」 和芳こころ(PN)(2枚組)

GWには、ほぼ毎年万博へ行っています。山田駅から歩いて西口へ。花の丘で敷物を敷き、お弁当を広げてのんびり過ごします。一面に咲いたポピーにカモミール、ネモフィラ…。我が家の「お花見」です。

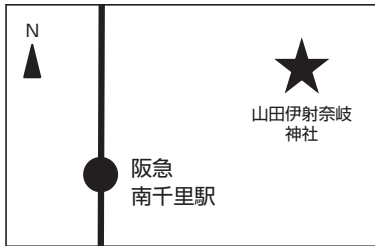


子供の頃、よく太陽の塔の真似をして～両手を横に広げ、口を尖らせて～一緒に写真を撮っていました。あの頃は、後ろ側の顔が少し怖くて、写真は専ら正面から（笑）。ずっと変わらない万博の「顔」ですね。



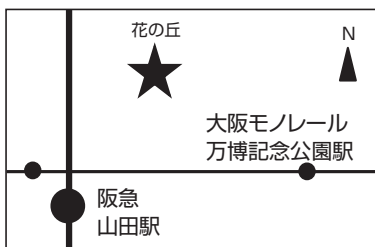
山田伊射奈岐神社のお祭り 平岡 正己

初めて降りた阪急山田駅。途中で道を尋ねた親娘三人連れさんと仲良くなり、伊射奈岐神社のお祭りに同行。そこで一枚走り描き。楽しい出会いの後、モノレールから万博公園を眺めながら南茨木へ。



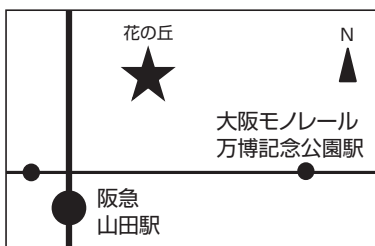
ポピーの咲く丘 飯田 桂

万博記念公園のポピーの咲く花の丘で老夫婦が睦まじく語らいながら休憩していた。ほのぼのとした暖かさとポピーの花が春の暖かさを感じさせる。



北摂の丘 水上 毅

春はポピーが咲く万博公園の「花の丘」です。青空に新緑の木も心地よく、北摂の丘風景がここにあります。

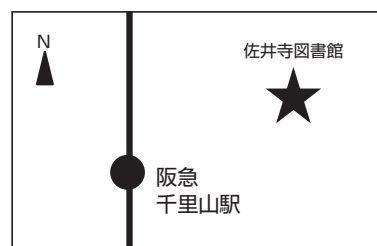




佐井寺図書館

明石 公夫

30年前妹が住んでいた街。久し振りに訪れた街は大幅に変貌していた。懐かしの景色を探して歩いていたら、佐井寺図書館に遭遇した。この街の象徴のような佇まいを絵に描きたいと思い、筆を取りました。



いつか記憶の景色 せのパッチ(PN)(2枚組)

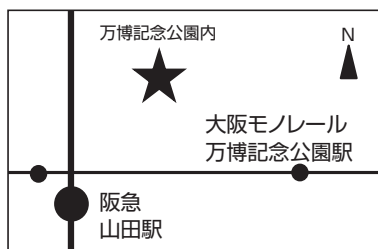
築40年を過ぎて順番に建て替えられていく千里の団地。子供の頃はよくこういう場所で、鬼ごっこや隠れんぼなんかしました。時代の流れとは言え、思い出の景色が少しずつ消えていくのは寂しいものです。



特等席

椿原 ヨシハル

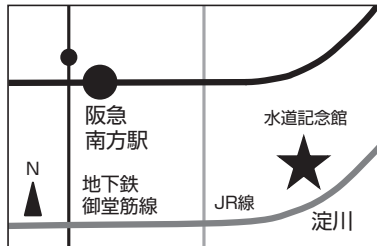
一年に数回、万博公園へは出かけるんですが、僕の好きな場所を3点選んでみました。



水道記念館

赤松 隆誠

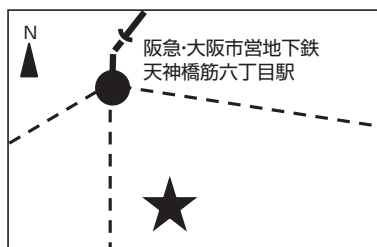
赤レンガと御影石との調和が美しい景観を創りだしている建物の、国の登録有形文化財に登録されており、今は休館になっているのではやく開館してほしいものです。



ギャルみこし躍る

れいこ (PN)

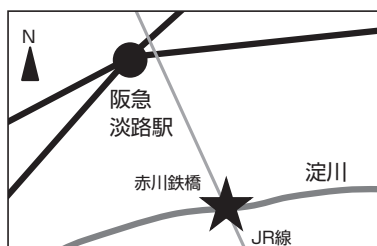
天神祭の先鋒として夏の風物詩となったギャルみこし、暑い中での巡行は、大阪の街に活気を与え、明るい街にしてくれる毎年楽しみにしている行事です。



通称「赤川鉄橋」

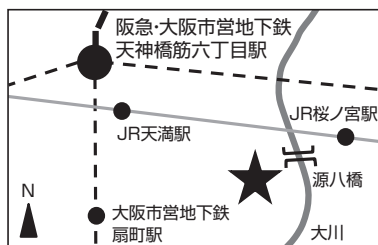
田中 雅之

全国でも珍しい鉄道と歩行者の共用橋が、昨秋生活道路としての役割を終えました。何気なく目にしてはいる普段の景色も、もうここから眺めることが出来ないと思うと、少し感傷的になりますね。



天神祭・船渡御の夜 前川 敏夫(3枚組)

仕事終わりに、出かけて撮れた天神祭。昨年転勤のため、休暇を取っての撮影に。じっくり、船渡御を撮りたくて。大阪の夏を体験できる祭です。やっぱり！

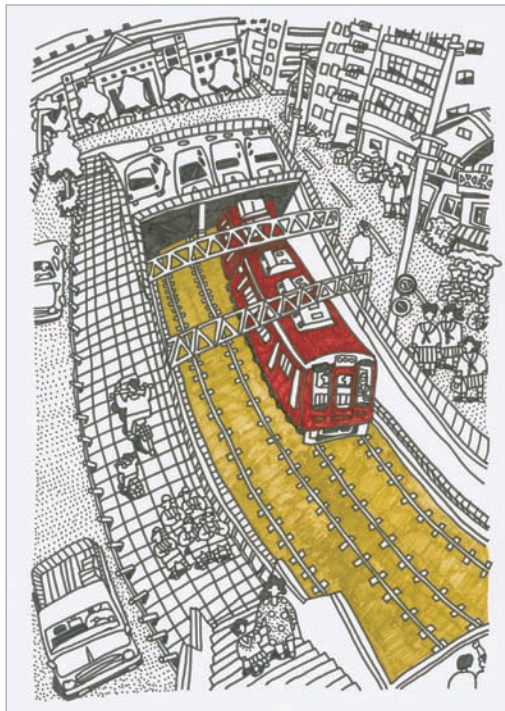


花火だけじゃないけど、祭は。つつい上を見上げてしまう夏の夜です。



大阪締めが、祭りを盛り上げます。

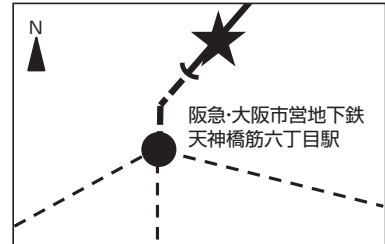




パッと明るく

中村 勇人

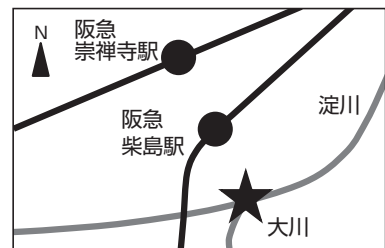
天六の駅をこえると、パッと明るくなる所、気持ち明るくなる。そんな所に行ってみました。まったく普通の街並みでした。



働く男たち

堀 浩樹

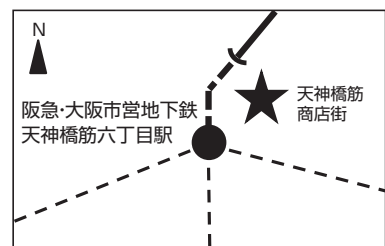
日が沈む頃、橋を工事している光景に出会いました。作業をする男らしいシルエットとチームワークに感銘をうけ、思わずシャッターを切りました。



雨の天神橋筋

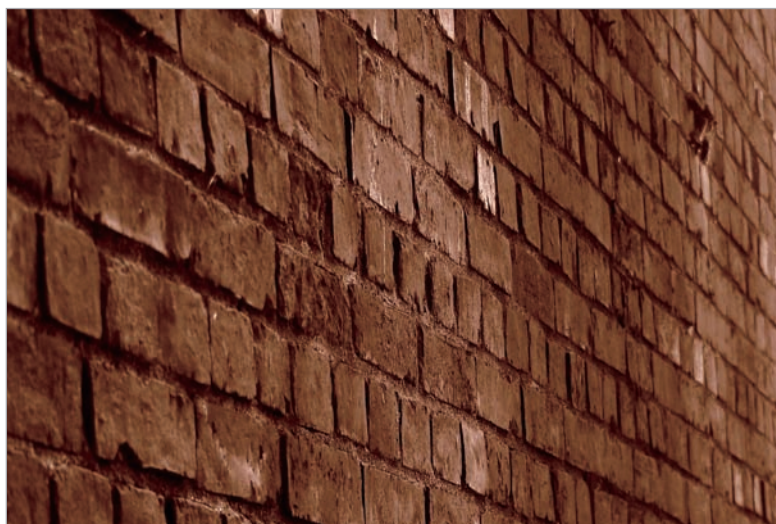
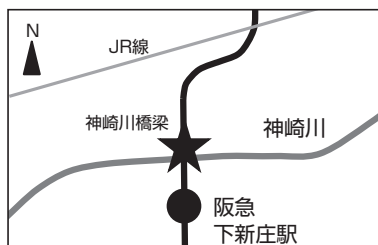
村上 綾

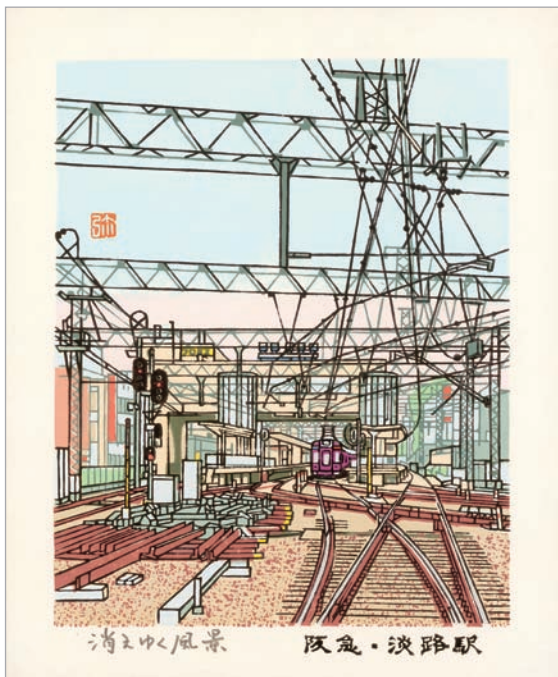
日本一長い商店街といえば、天神橋筋商店街。中でも六丁目は「大阪くらしの今昔館」があり、江戸・昭和の大阪町にタイムスリップできる魅力ある場所。雨でも思わず来てしまう町「てんろく」を今回描きました。



歴史を積んで 水上 毅 (3枚組)

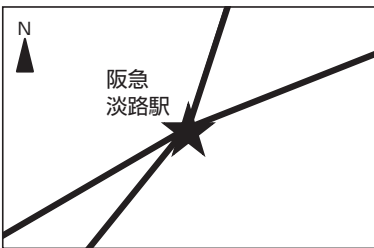
旧国鉄時代の明治初頭に出来た橋を利用して
いる千里線の神崎川橋梁は、近づいてレンガ
積の橋脚を見ると、まるで大木の年輪か
のようでとても感慨深いです。





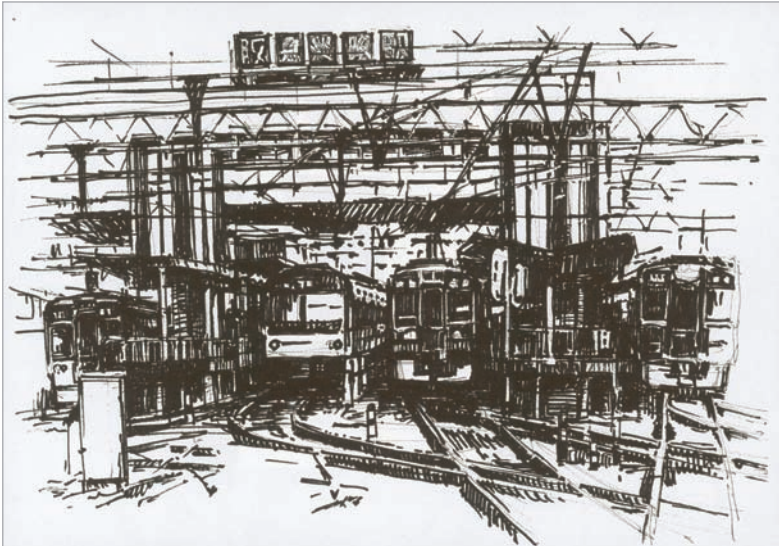
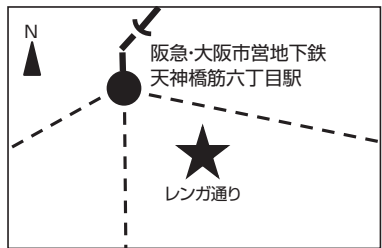
消えゆく風景 阪急淡路駅 金盛 弥

何らかの事情で大阪のまちから消えていく風景（建物）を毎年版画にしております。連立事業によって変わりゆく淡路駅と柴島駅に「さようなら」と「ごころさん」の思いを抱きながら彫ってみました。



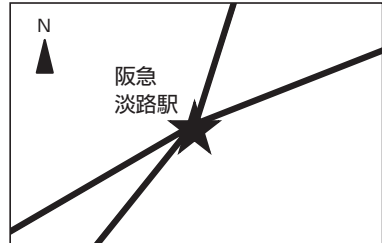
身近な特別 YAMA(PN)

レンガづくりの飲食店街。日が長くなり少し明るい夕方の空。店にも電気がつきだすこの時間。まだ人の少ない静けさとライト、レンガの印象的な演出が、この場所をいつもより特別に感じさせてくれます。



2014.5.5 淡路駅 竹川 タダシ

阪急淡路新駅までカウントダウンの日々。この慌ただしい電車発着と喧騒の光景が地域の愛着風景として、やがては人々の記憶画像へ切り替わるでしょう。今、淡路の駅は未来への期待と郷愁が交差しています。



第1回 阪急電鉄開業100周年記念 阪急ええはがきコンテスト 宝塚線・箕面線

阪急電鉄開業100周年を記念して、創業当時の路線である宝塚線・箕面線沿線を対象に開催。

作品募集期間：2010年2月1日～5月7日

対象路線：宝塚線、箕面線

対象エリア：大阪市(北区・淀川区)、豊中市、池田市、箕面市、川西市、宝塚市

審査員(敬称略)：有野永霧(写真家)、井上正三(画家)、杉本容子(大阪ええはがき研究会)、茶谷幸治(イベントプロデューサー)

入選作品：100作品

主催：阪急電鉄株式会社

共催：阪急阪神ホールディングス株式会社

後援：大阪府、兵庫県、大阪市、豊中市、池田市、箕面市、川西市、宝塚市、池田市観光協会、箕面市観光協会、川西市観光協会、宝塚市国際観光協会

協力：大阪ええはがき研究会



最優秀賞 写真部門
五月のレンゲ畑 當山悦司



最優秀賞 絵画部門
豊南市場 内橋未央



PRポスター



開業100周年記念シンポジウムでの表彰式
(宝塚ホテル)



入選作品の展示
(梅田駅1F中央WEST広場)

第2回 映画「阪急電車 片道15分の奇跡」ロードショー記念 阪急ええはがきコンテスト 今津線

映画「阪急電車 片道15分の奇跡」のロードショーを記念して、映画の舞台である今津線沿線を対象に開催。

作品募集期間：2011年3月25日～6月3日

対象路線：今津線

対象エリア：宝塚市、西宮市

審査員(敬称略)：有川浩(作家)、有野永霧(写真家)、井上正三(画家)、杉本容子(大阪ええはがき研究会)

入選作品：54作品

主催：阪急電鉄株式会社

共催：阪急阪神ホールディングス株式会社

後援：兵庫県、宝塚市、西宮市

協力：大阪ええはがき研究会

特別協力：西宮市宝塚市内郵便局、阪急西宮ガーデンズ



最優秀賞 写真部門
マイ・ウェイ 本城利彦



最優秀賞 絵画部門
ビール工場 奥村誠



PRポスター



入選作品の展示
(西宮北口駅カリヨン広場)

第3回 阪急ええはがきコンテスト 京都

初めて京都方面を対象にしたコンテスト。

作品募集期間：2012年3月27日～5月31日

対象路線：京都線(京都府域)、嵐山線

対象エリア：京都市(中京区・東山区・下京区・右京区・西京区)、向日市、長岡京市、大山崎町

審査員(敬称略)：有野永霧(写真家)、井上正三(画家)、杉本容子(大阪ええはがき研究会)、土居好江(NPO法人遊悠舎京すずめ)

入選作品：102作品

主催：阪急電鉄株式会社

共催：阪急阪神ホールディングス株式会社

後援：京都府、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町

協力：大阪ええはがき研究会、株式会社阪急コミュニケーションズ



最優秀賞 写真部門
一本の橋 水上毅



最優秀賞 絵画部門
京の風情 納涼床 中村勇人



PRポスター



入選作品の展示
(梅田駅1F中央WEST広場)

第4回 阪急ええはがきコンテスト京都線part2

西山天王山駅が2013年12月に開業したことを記念して開催。

作品募集期間：2013年7月8日～9月30日

対象エリア：西山天王山駅を中心とする京都線沿線地域(向日市域～高槻市域)、西山天王山駅で直結する京都縦貫自動車道沿道地域(亀岡市、京都市(西京区・伏見区)、八幡市、久御山町)

審査員(敬称略)：有野永霧(写真家)、井上正三(画家)、杉本容子(大阪ええはがき研究会)

入選作品：75作品

主催：阪急電鉄株式会社

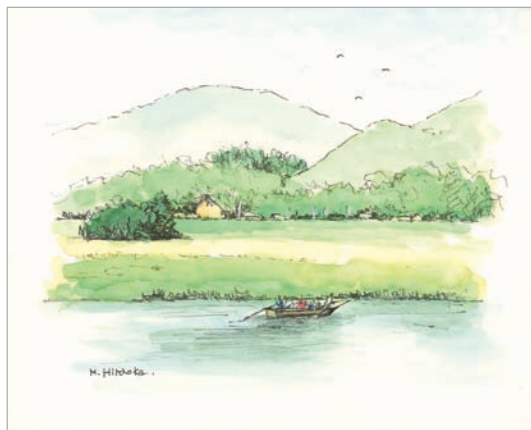
共催：阪急阪神ホールディングス株式会社

後援：京都府、大阪府、向日市、長岡京市、大山崎町、高槻市、島本町

協力：大阪ええはがき研究会、株式会社阪急コミュニケーションズ



最優秀賞 写真部門
春風 鳴瀬博美



最優秀賞 絵画部門
保津川下り 平岡正己



PRポスター



入選作品の展示
(梅田駅1F中央WEST広場)

審査員の先生方からのメッセージ

コンテストの審査員の先生方からいただいた、コンテストを振り返ってのメッセージをご紹介します。

有野永霧先生（写真家）

この京都線は阪急電鉄の歴史を担ってきた幹線であり、千里線は近代の新しい時代を牽引してきた支線であるとも言えます。そこでこの地域は、歴史建造物が多いだけでなく、住宅地をはじめ、現代の新しい風景も多い。そのような理由があったのでしょう、昔からある伝統的な風景だけでなく、今を感じさせる優れた写真も多く集まりました。

特に今回は、今までに見たこともない新しい視覚の作品や、質の上でも実に優れた上位作品を選考することができました。それらはこのコンテストのレベルの高さを示すに値する作品です。入選作をみて、この魅力的な沿線の雰囲気を感じ、楽しんでいただけると確信いたします。

■有野永霧(ありの えいむ)先生プロフィール

尼崎市生まれ。大阪学芸大学(現大阪教育大学)卒業。1985年尼崎市民芸術奨励賞、2002年尼崎市民芸術賞受賞。1981年タイムライフ写真年鑑新人賞、1994年第19回伊奈信男賞受賞。国内外で多数の写真展を開催し、写真集に「虚実空間・都市」、「都市からのメッセージ」、「都市との対話」、「虚実空間・空蟬の都市」、「虚実空間・空蟬の風景」、新刊に「日本人景 温泉川」などがある。写真家。元大阪芸術大学教授。

井上正三先生（画家）

今回の応募作品は、沿線の清楚な街並みや下町の生活感がにじむ風景を題材にした作品が多くありました。看板や電柱が林立する線路沿いの小道や、ガード下、路地裏…住む人の生活音が絶え間なく聞こえ、日常がゆるやかに流れる風景です。慣れ親しんだ町にはいろんな思いが詰まっているのでしょう。中には風景の中に懐古に似た思いをダブらせた絵も印象的でした。素朴で時には哀愁に満ちた町風景、そこはやはり昔から変わることのない住み慣れた町、その中でふと新しい魅力を再発見した感動が絵を描く契機になったのかもしれませんが。

今回はシリーズの5回目、今まで多様な沿道風景を拝見してきましたが、今回は沿線の方々の生活に密着した原風景の中に、そこに住む方々の地域を愛する息遣いを感じました。

■井上正三(いのうえ しょうぞう)先生プロフィール

芦屋市在住。1994年に絵はがきシリーズ「風のたより」初出版。2008年水彩画集「風の便りに彩りそえて」を日貿出版社から出版。郵政省の絵はがきやモロゾフ製菓のパッケージデザイン、芦屋市、宝塚市など各市広報誌や、月刊誌「まいんど」の連載など多くの部門を手掛けている。2002年には、芦屋市長から米姉妹都市モンテペロ市長に水彩画「芦屋川」が寄贈されている。現在、ジパング倶楽部講師、読売文化センター講師など阪神間各地で絵画教室を担当している。

杉本容子先生（大阪ええはがき研究会）

千里線というニュータウンを抱えた住宅地がテーマの今回。日常生活のなかでキラリと光る、何気ない魅力にたくさん出会うことができました。散歩の風景、団地のデザイン、路地のお掃除…。当たり前の風景だからこそ、その魅力を切り取るには作者の豊かな感性が必要です。コンテストが回を重ね、沿線の方々に「まちの魅力察知能力」や「まちを楽しみながら生活するスタイル」が醸成されてきたのかもしれない。全線制覇に向けた次回の開催を楽しみにしています。

■杉本容子(すぎもと ようこ)先生プロフィール

大阪ええはがき研究会メンバー。神奈川県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。工学博士。まちづくりコンサルタントとして大阪の水辺再生や歴史的街なみづくりに関わるかたわら、アフターエイトに大阪のまちをおもしろくするNPO活動に積極的に参加。大阪府都市魅力創造局にて民間からの特別任用により都市魅力を創造する施策の企画調整を担当。その後、株式会社ワイキューブ・ラボを設立、代表取締役役に就任。

阪急ええはがきコンテスト 京都線part3&千里線 入選作品集

発行 2014年11月

編集・発行 阪急電鉄株式会社 都市交通計画部
大阪市北区芝田1-16-1

E-mail hc-eehagaki@hankyu-group.jp

URL <http://www.hankyu.co.jp/eehagaki/>





私たちは、未来へつなく
「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。